

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1745号 2004年08月30日(月)

今週は短めに。先週のこの号で取り上げた原油相場は、ニューヨークの先物相場期近で高値のバレル50ドルに限りなく近いところから、安値では42.50ドルに下げる急落場面を演じました。50ドル近い高値は“行き過ぎ”というのは先週も指摘しましたが、その後の下げも厳しかったということです。先週末の引けは43ドル台。

しかし先週も指摘したとおり、このまま原油相場が40ドルを割り、さらり下値模索を続けるとの見方は少ない。先週の高値からの原油相場の下げは、(1)ベネズエラの選挙が順調に進んでいたこと (2)イラクの原油輸出の一部再開 (3)ロシアからの原油供給への懸念後退などを反映したものの。

対して市場の根底にあるのは需要の急増傾向です。先週の号で強く指摘しましたが、週末に読んだウォール・ストリート・ジャーナルにも

**「Mr. Thiel predicts crude will consolidate for a while -- maybe even months -- but won't retreat far from \$40 a barrel and will rise again by early 2005. "I'm pretty agnostic about what happens tomorrow or in the next week," he said. "The basic reason prices will stay high is that demand is moving above supply."」**

という文章があった。この文書に登場する人が言うようにバレル40ドルを割らないと言い切れるかどうかは筆者には疑問がある。相場にはモメンタムというものがあるからだ。しかし、「需要が供給を上回る状態がある以上、原油相場は高値止まりする」との見方には賛成である。高値とは、例えば35ドルを上回るレベルを指す。あまり原油が高値になると(例えば50ドル)原油需要は落ちるから事情は変わってくる。しかし35ドル前後なら今の世界経済の状況を考えて、中国、インドなど途上国サイドでも需要は強い。原油相場は依然として高値波乱の展開だと予想する。

世界的に株価が上昇したのは、この原油価格の下落もあったが、ロシアのテロが局地的な背景を持ったものであることが判明したのと、例えば原油相場が高値であっても短期的には世界経済全体に対する影響はそれほど大きくないとの見方が広がったことが背景だと考えられる。各市場ともこのところの下げがきつかったことも、世界的な株価の戻りに繋がった。現在が世界的な金利引き上げ局面にあることを考えるなら、株価の戻りが一直線に行くとは考えていない。今後も何回も dip の局面はあるだろう。しかし、今の世界の成長余力

や世界的な PER の低さから考えれば、株式市場の地合いは強いと考える。

外国為替市場では、ドル・円はほとんど動かず。結果的に言えることは、原油相場の上げ下げはあまり両国通貨関係には影響がなかったように見える。それは輸入国という点から見れば、特に日本とアメリカのどちらが有利という状況ではない、同じ立場に立たされているということだ。今後もこの関係は続くだろう。弱さが目立ったのは、欧州通貨である。ユーロ・ドルは1.23ドルをしばらく続けた後、このレベルが抜けないと分かった段階で欧州通貨ロングへの利食いが入って下落。しかし、一気にユーロ安になる気配もない。アメリカの利上げの先行きに関する不確定要素がある中では、ドルが一方向的に上げる可能性も少ない、と見ます。

来週の予定では、やはり雇用統計が大きいでしょう。先月に切れた雇用の伸びが盛り返すのか、それともやはり雇用はあまり伸びないのか。この統計は秋の大統領選挙にも影響を及ぼす。7月の雇用統計の伸びが市場予測を大きく下回ったとき、ブッシュ大統領はなるべくその数字には触れない戦略をとった。もし8月の統計も悪かったときには、同じ手を使うのは難しいだろう。タイム誌の世論調査では支持率でケリー候補をひっくり返したブッシュ候補にとって、最大の敵はこれからの経済統計ということになる。

今週はニューヨークで共和党大会が開かれる。そのニューヨークでは反ブッシュの大規模なデモが行われたようで、まだまだ米大統領選挙の行方は霧の中です。

今週の主な予定は以下の通りです。

8月30日(月)	7月商業販売統計 民主党代表選告示(投開票9月13日) 米7月個人所得・支出 米共和党大会(~9月2日)
8月31日(火)	7月鉱工業生産 7月住宅着工 来年度予算概算要求締め切り 米8月コンファレンスボード信頼感指数 米8月シカゴ購買部協会景気指数
9月1日(水)	8月自動車販売 米7月建設支出 米8月ISM製造業景気指数 米8月国内自動車販売
9月2日(木)	米4-6月非農業部門労働生産性(改定) 米7月製造業受注 ECB理事会
9月3日(金)	7月家計調査(全世帯)

米 8 月雇用統計

米 8 月 I S M 非製造業景気指数

### 《 have a nice week 》

長かったオリンピックも終わり。毎日かわいがっていたペットが突然いなくなるようで、寂しいですね。室伏選手も無事金メダルになってよかったし、最後の男子マラソン（ハプニングには驚きましたね）は女子に比べれば物足りなかったが、日本人が二人も入賞した。男子も次の北京ではやってくれるでしょう。日本人には楽しいオリンピックだったと思う。

選手が皆楽しそうにやっていたのが良い。むろん緊張とかプレッシャーはあったでしょう。しかしそれを力に変えていた人が多かった。シドニーは金、銀、銅の順で「5・8・5」だったそうです、それが「16・9・12」になった。国際的基準を念頭に置いて、国内の組織の組み替えをしても対応を急ぎ、国立スポーツ科学センター（JISS 東京・北区）でスポーツ全般の科学的解析を行い、選手に知恵を与えた成果が出たのだと思う。

私には日本のアテネ・オリンピックでの躍進とスポーツ再興は、10年以上の苦境から抜け出しつつある日本経済にダブって見える。「日本はスポーツでも経済でも抜けてきたかな……」と。日本企業も国立スポーツ科学センター（JISS 東京・北区）に相当する研究システムで発見や改善、それに独創を加えて製品を高付加価値化し、国際ルールとその変化を熟知・勘案した上で世界に打って出て成功を収めつつある。

休む選手は休み、また次のステージに向かって努力して欲しいなあ..と思う。女子マラソンの野口みずきさんが、「こんなに一杯の歓声と拍手を自分の体で浴びることが出来て幸せ...」というようなことを言っていた。素直な言葉だと思う。スポーツの醍醐味でしょう。

それでは皆さんには、良い一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com)）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》